

第3種 厚岸漁港 (北海道厚岸町)

あつけし 厚岸地区特定漁港漁場整備事業計画

厚岸圏域
流通拠点



厚岸地域マリンビジョン策定(モデル地域)

現状と課題

- ・カモメなどの鳥類が蝟集する中、野天での陸揚げ作業を余儀なくされており、水産物を衛生的に取り扱うことが困難な状況にある。
- ・陸揚げ箇所の背後用地が狭隘であり、盛漁期には多数の車両が集中し、危険かつ非効率な作業を強いられている。
- ・東日本大震災では、津波来襲による漁船等の流出、陸上施設の浸水、背後地域の一時孤立化が発生し、防災対策の強化が課題である。

港勢 (H29港勢調査)

登録漁船:705隻
 利用漁船:752隻
 (内、外来漁船:47隻)
 属地陸揚量:15,780トン
 属地陸揚金額:51.5億円
 主な魚種:サンマ、マイワシ
 組合員数:326人

◎厚岸漁港の役割

- ・道内外のサンマ棒受網、イカ釣り漁業が利用する全国有数の流通拠点
- ・コンブ、カキ、アサリ等の沿岸・養殖漁業の生産拠点

主要対策



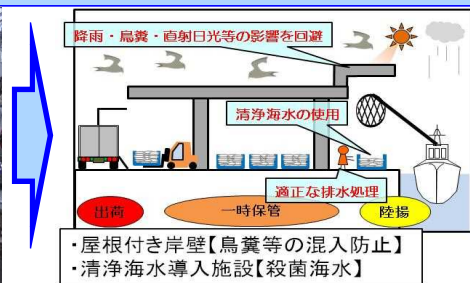
主な整備方針

- ・サンマ棒受網漁業などの全国有数の流通拠点として、漁獲から陸揚げ・流通に至る総合的な衛生管理の強化を図るため、屋根付き岸壁、清浄海水導入施設等の整備を行う。
- ・狭隘な用地での作業環境を改善するとともに、防災機能の強化を図るため、陸揚げ機能の移転とあわせ、人工地盤等の整備を行う。
- ・災害時の漁港利用者の安全確保、水産業の早期再開、背後集落への緊急物資輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁、津波漂流物対策施設等の整備を行う。

基本事項

全体事業費:177.9億円
 事業期間:H25~R4

主要な対策①：衛生管理対策



主要な対策②：狭隘解消

